

月・火休館、祝日開館 開館時間 9:30~17:00

月	火	水	木	金	土	日
月火曜日は 休館日						1 クラフト 講座 陶芸:素焼
2	3	4	5 陶芸教室 夜間開放	6	7	8
9	10	11	12 陶芸教室 夜間開放	13	14	15 わくわく
16	17	18	19 陶芸教室 夜間開放	20	21 しめ かざり	22 しめ かざり 陶芸:本焼
23	24	25	26 陶芸教室 夜間開放	27	28 29 大掃除のため 休館	
30 年末年始の休館 (~1月6日)	31					

今月のご案内

ネイチャークラフト講座 ~その1~

つるかごづくり

ヤマブドウのつるをつかって「かご」を編みます。身近な自然素材を生活の中にとりいれてみませんか?かご作りの前に、リーフを編んで練習します。

【日 時】12月15日(日) 10:00~15:00

【場 所】ブナセンター

【申込み】前日17:00までに
ブナセンターに電話

【定 員】5名 ※中学生以上

【参加料】300円

【持ち物】汚れてもいい服装、昼食、
飲み物



※かごは直径20cm以上のものができます

わくわく土曜日ランド

森のかざりづくり

~クリスマスに飾ろう~

野山からいただいた材料を使って、クリスマスツリーなどクリスマスにちなんだ飾りを作ります。高学年、低学年で時間帯と内容が変わります。

※午前の部はナイフを使います。

【日 時】12月15日(日)

10:00~12:30 (3~6年生)

14:00~16:00 (1~2年生)

【場 所】ブナセンター※送迎の場合要相談

【申込み】前日17:00までにブナセンターに電話

【定 員】各回10名 ※親子参加可

【参加料】300円

【持ち物】野外で活動できる暖かい服装、長靴、
着替え、手袋、水筒
※野外で素材を集める場合があります。



ネイチャークラフト講座 ~その2~

故・渋谷吉尾爺直伝

開拓時代のしめ飾り

かんじき作りの名人だった渋谷吉尾爺から教わった手作りのしめ飾りです。スゲを緋い、輪にして、トドマツを飾ります。昔ながらの素朴なしめ飾りを、一年の感謝を込めて作りましょう。

【日 程】①12月21日(土)

②12月22日(日)

【時 間】各回10:00~12:30

【場 所】ブナセンター

【講 師】齋藤 均氏

【申込み】前日17:00までに
ブナセンターに電話

【定 員】各回5名 ※中学生以上 ※町民優先

【参加料】500円

【持ち物】汚れてもいい服装

(靴は脱いで足を使って作ります)



工房からのお知らせ

木工房：開館時間中は随時利用(簡単なクラフト)できます

食工房：主に冬期間、町内のグループが味噌や豆腐を作ります(興味のある方はまずは見学を)

陶工房：初めてのの方は教室(カレンダー参照)にご参加ください

工房利用についてくわしくはお問合せください



昨年度はブナセンター30周年。皆様のご支援・ご協力に感謝の年でした。

これからは歌オブナ林天然記念物指定100周年(2028年10月22日)へ。あと4年です!



FacebookのQRコードはこちら

発行所：黒松内町ブナセンター
〒048-0101 北海道寿都郡黒松内町字黒松内512-1
TEL 0136-72-4411 FAX 0136-72-4440
MAIL bunacent@host.or.jp HP <https://bunacent.host.jp>
FB <https://www.facebook.com/kuromatsunai.bunacent>

「二次林のブナ調査体験！」を開催しました

10月26日(土)、北海道大学大学院農学研究院講師の斎藤秀之先生と学生さん達にお越しいただき、実際に森林の調査体験を通して、「研究者はどのように森林を調査をしているのか」、また「調査をすることでどんなことがわかるのか」などを学びました。

▶「二次林」とは…？

森林が伐採や山火事などで攪乱(かくらん)された後、自然に再生している途中の森林のこと。

黒松内では添別ブナ林などが二次林にあたります。今回の講座では、ブナセンターに最も近い二次林である、ブナの小道で調査を行いました。

ちなみに「一次林」とは、一度も大きな攪乱が起こっていない、歌オブナ林のような原生林のことを言います。

▶調査体験！

ブナの小道の二次林で、10m×20mの調査区を設置し、生えている樹木の種類、胸高直径(胸の高さの位置で測る、幹の直径のこと)、樹高などを調べました。



超音波を使って樹高を測る「パーテックス」など、測定の道具も特殊！

講師：斎藤秀之先生



2000年の黒松内生物多様性保全奨励事業(黒松内の生物多様性の保全・再生・活用に関する研究に助成を行う事業)のブナセンター賞受賞者でもあります。当時の研究の際、添別ブナ林に建てられたタワーは、以後様々な研究に役立てられています。

▶調査結果は…

添別ブナ林で行われているブナ林の調査結果と照らし合わせると、ブナの胸高直径から大体の樹齢を推測することができます。これによると、ブナの小道では、樹齢75年や樹齢100年など、生えているブナの樹齢が異なっていることが分かりました。

このことから、ブナの小道は、“ある時期に一斉に芽生えたブナによって成立しているわけではない”ということが予想できます。

今回の調査体験を通して、樹木の直径や樹高など、見ただけでは何となくしかわからないものを数値にして比較する事で、見えてくる森林の姿があることを実感できました。このような調査によって得られた森林の基礎的な情報は、森林の保全や活用の方法を検討するための重要な資料となっています。

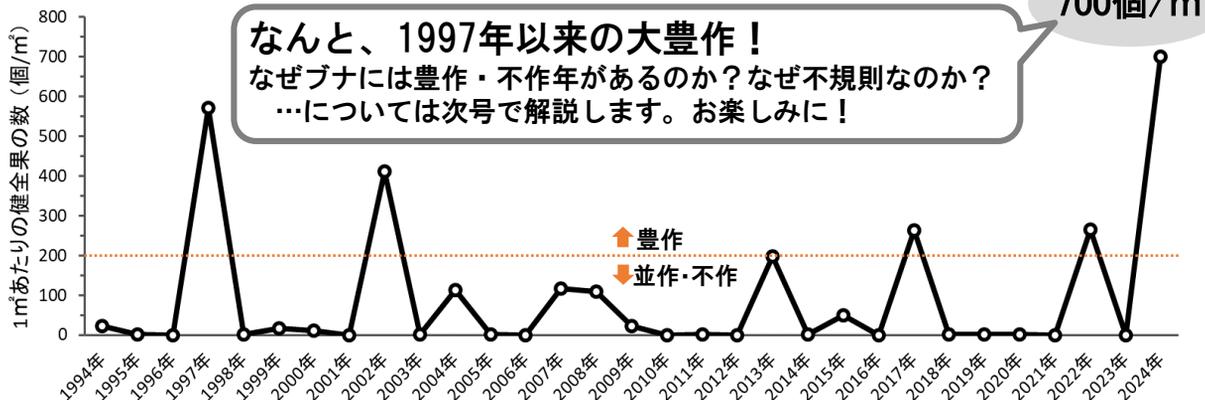
今後も斎藤先生は、添別ブナ林にて森林調査を継続されるそうです。添別ブナ林は、約100年前に伐採により攪乱された後、自然に再生してきたという歴史を持つ貴重な二次林です。2023年には環境省の「自然共生サイト※1」に認定され、世界目標である「30by30※2」達成に貢献している森でもあります。多くの注目が集まる添別ブナ林、私たちも大切にしていきたいですね。

※1 民間の取り組み等によって生物多様性の保全が図られている区域のこと。

※2 2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする目標。

ブナの実調査 結果発表！

ブナセンターでは、歌オブナ林の結実状況(豊作年か不作年か)を1994年から調査しています。先月号に引きつづき、仕掛けたシードトラップに落下したブナの実を数えました。その結果は驚くべきものでした…！



シード
トラップ